

お客さんの「こんなものが欲しい」を形に！ 現場のニーズにこだわり成長

スノーピーク本社視察 11月8日
産業経済委員会



自社製品を使った
ユニークなミーティングルームで商品開発

平日ということもあつてか、このスノーピーク本社のゴルフコースのような敷地のキャンプサイトには、数組がテントを張りゆったりと楽しんでいたので印象的。区画は設けず自由にキャンプ設置できるのが売り。特徴的なのはそのビジネススタイル。マーケティングはせずに基本はイベントで集客。スタッフがお客様のような感覚でお客さんと接

し、新商品などを気軽に電話で紹介するとか…。だから週末のイベントには300〜400組、お礼のイベントには5000〜6000人も訪れたというから驚きです。山登りが好きだった山井商店創業者は、欲しいものが売られていかなかった経験から、「自分で図面を描いて、自分たちで作る」ことにしたのが始まり。

企画設計などを行う建物の前にキャンプ場があるので、仕事の合間に外に出てお客さんと話し、「こういうものがあつたらいい」を聞き出し、試作品を作り、検証する、そんな強みがこの本社とキャンプサイト併設にあるとのこと。現場主義に徹しているビジネスモデル、白馬村の観光にも活かせるのでは…。

教育現場の生の声を聴く

学校関係者との懇談 11月26日
総務社会委員会



教育の「今」を知る大切な場

11月26日、昨年度に引き続き小中学校の校長・教頭先生、並びに村教育委員、教育長及び教育課を招き懇談会を開催しました。先生方の仕事量、通学路の安全、不登校・いじめの有無などの実情のほか、施設整備

に関する要望のほか、完成間近の学校給食センターの運用や、中学生の地元白馬高校への進学状況についても懇談のテーマとなりました。紙面にてすべてをお伝えは出来ませんが、いわゆるサービス残業で子供たちの

ために尽くしてくださっている状況などをお聞きするにつけ、頭の下がる思いでした。様々な今現在の生の義務教育現場の状況を、私どもを含め関係者で共有出来た、有意義な懇談会となりました。

勉強になった松川・穂高の図書館複合施設

図書館複合施設視察 10月31日
総務社会委員会



理想的な環境の穂高交流学習センター「みらい」

10月31日、松川村と安曇野市の図書館複合施設の視察を行いました。これは本村においても、平成34年度を目標に同じような複合施設建設の基本構想策定作業を現在進めているためです。いずれの施設も平成21年に完成。図書館を核にし、小ホールなどを備えた複合施

設であり、松川村の施設は当初から上限を10億円と定めて建設。しっかりと土地利用計画のもと、施設に隣接する広々とした公園（9億円）を併設。一方の安曇野市穂高の施設は、小学校跡地を買い戻し20億円で建設。こちらも敷地の広さを十分活かした清々しい緑の空間が、図

書館の大きな惹越しに広がっていました。どちらも大変に参考になりました。有識者会議で構想が練られている最中の本村の計画。ワークショップで熱く語られる夢を実現し、かくあつてほしいものだと思います。

表紙の写真説明



飯田区で毎年1月15日ころ行われる正月飾りの火祭り「おんべやき」。この行事に欠かせないのがこの「花づくり」と子供たちが果たす役割だ。麻縄につけた「三九郎」と呼ばれる木でできた男根に擬したものを、区内各戸の玄関先で放り出す。子孫繁栄を祈願し、だるま、門松、お札などを集める。今ではこの三九郎を使っているのは飯田区だけとなった。後世に残していきたい珍しい大切な年中行事だ。

ご意見を
お寄せください。

85-0725(直通)
72-7001(ファックス)

むらの未来が見える
12月定例会の傍聴者延べ
本会議 25名、委員会 2名 合計 27名

委員会も傍聴できます

次の定例会は 3月 本会議はユーテレ白馬でご覧いただけます